科目区分：生活環境コース　　授業科目：人間生活原論
担当教員：金子省子、野中美津枝

# １回生必修授業における発表形式の活用

家政教育講座・金子　省子

## １．授業の概観

生活環境コース１回生後期の必修科目である。教員の退官に伴い本年度から、前半の担当者が変わったが、後半は、引き続き日本の近代以降の産育に焦点をあてた内容とし、歴史的な変遷をふまえた現状と課題について、金子が担当した。講義５回に続きこれに関連したレポート発表回（３回）を設けた。

本年度は、冬休みに資料収集や準備の期間がとれる日程であったため、３つの大きな柱を提示し、学生の問題関心を聞きながら調整し大きく３グループに分けて、個々人で副題をつけて発表する形とした。受講生数は 21 名（生活環境コース 1 回生 20 名、1 回生 1 名）だった。

本年度は、昨年とは異なり資料等を教員が提示して選択させることはせず、副題の設定や資料選択を学生に任せた。その際の条件や注意事項についてはあらかじめ示した。

## ２．授業評価法

後半の金子の担当部分に関して最終回にアンケートを実施した。５段階で回答を求め、最後に自由記述で良かった点と改善すべき点をたずねた。

## ３．授業評価結果

１）各項目についての５段階での回答から

①「シラバスや予定にそった授業、予定の変更等の適切な伝達ができていたか」

「大変そう思う」が 8 名、「そう思う」が 10 名、「どちらとも言えない」が１名だった。

②「毎回のテーマは授業の構成・展開のなかで明確だったか」

「大変そう思う」が 6 名、「そう思う」が 12 名、「どちらとも言えない」が１名だった。

③「講義部分と演習部分のバランスは適切か」

「大変そう思う」が 4 名、「そう思う」が 14 名、「どちらとも言えない」が１名だった。

④「進度や難易度は適切だったか」

「大変そう思う」が６名、「そう思う」12 名、「どちらとも言えない」は１名だった。

⑤「報告に向け、積極的に取り組めたか」

「大変そう思う」が 10 名、「そう思う」が 9名で、「どちらとも言えない」が１名だった。

⑥「他の発表を誠実に聞き、学ぶことができたか」

「大変そう思う」が 11 名、「そう思う」が 8 名、「どちらとも言えない」が１名だった。

⑦「報告準備にあたり、教員のサポートは適切か」

「大変そう思う」が４名、「そう思う」が 7 名ある一方で「どちらとも言えない」が８名にのぼった。

⑧「今後、意欲をもって学びたい課題が発見できたか」

「大変そう思う」が 6 名、「そう思う」が 12 名、「どちらとも言えない」が１名だった。

ほとんどすべての項目に「どちらとも言えない」と回答した１名の回答を除くと、肯定的な回答結果となった。しかし、⑦について「どちらとも言えない」が多数みられた。

２）自由記述から

①良かった点

19 名中 17 名が記述しており、複数の観点から記述しているものもみられた。

発表を通しての学習の成果を回答者 19 名中 16 名が挙げていた。この 16 名の意見を具体的にみると、自分がレジュメを準備し報告をした成果を「レポート作成を通じて興味のある点を深められた」「自分の興味ある点を自発的に調べられた点」などと述べているものがある。また、「レジュメで報告をすることで、まとめ方をより考えることができた。」「手元に資料が残るのがよい。」という発表方法についての指摘もみられた。特に、「他の人の発表を通して自分が調べた以外にも、調べた内容や意見を聞き知識を増やすことができた」、「視野を広げ幅広く学べた。」など、同じ

テーマの他の発表や、異なるテーマの発表を通しての知識の広がりを指摘するものが多い。

これに加えて、全体として「子育ての現状やジェンダーや今の社会の問題などに興味をもてるようになった」ことや「保育についてはじめて現状などを知ることができた」という知識の習得に関する点が挙げられた。

このほか、講義部分と発表との関連について「授業で学んだ内容を自分の研究に活かせた」としている意見もみられた。

②改善したほうが良い点

8名が記述していた。

講義部分について、「ビデオなどをみられたら良かった」「もっと資料があると良かった」「板書がわかりにくい」という意見があった。また、発表については、「パワーポイントを使いたかった」という意見、「発表の時間配分で（1 時間のうちの）後半の人があせらされて満足のいく発表ができなかった」という意見がみられた。

## ４．まとめ

この科目は、人間生活に関する内容の基礎を学ぶことと同時に、自ら課題を見出し、報告を行う力を身につけ、他の受講生の報告や意見に学びながら、問題関心を広げていくことも目標としている。

ほとんどの学生が今後意欲をもって学びたい課題を発見できたとしており、また、自由記述で大半の学生が自身の報告や他の発表からの知識の広がりについて述べていた。また、発表資料の作成や発表内容は、質的にも量的にも例年以上であった。

しかし、講義部分についての改善すべき点の指摘や発表方法（時間）についての指摘もあることから、細部に関してさらに検討していきたい。

また、冬休み等を活用した時間外学習についての教員のサポートについては、今回中間的な評価がかなりみられた。これは例えば2005 年度のこの授業についての同項目の評価と比べてもかなり多い。2005 年度は授業日程との関係で余裕がなく教員があらかじめ資料候補を準備しながら個別に相談して報告資料を決定するという形をとっていた。年度による資料決定の時期、方法、サポート体制など、さらに、検討していきたい。

生活環境コースの学生は、前期のコース初歩学習科目で、個々の問題関心に即したレポート発表の機会をもっている。今年度の入学生からは、3 回生時に必修の演習科目で、多様な生活環境諸問題とこれにふさわしい方法について学び、実際に個々人が設定したテーマに関してそれらの方法を応用し発表に臨むこととしている。この授業は、必修科目であることから、1 回生時に身につけてほしいレポート作成・発表の基準をどこに設定し、教員がかかわるか、講義部分との連関をどのようにとるかについて、このような生活環境コースのカリキュラム構成の視点からも検討していく必要がある。